

自己改革へJA経営診断

組合員基盤や
資産活用力 九つの“力量”把握

広島中央会

【広島】JAグループの自己改革が本格化する中、JA広島中央会は、県内13JAを対象にした総合経営診断を行う。JAの持続的な健全経営に向けた組合員基盤力や対応力、資産活用力、事業力など九つの“力量”を係数的に把握することで、課題を明確にして、自己改革の実践を促すのが主な狙い。2017年3月までに診断結果を打ち出す。

総合経営診断は有限責任監査法人トーマツの支援を受けて行う。①組合員意識調査②収益力・資産活用力・財務基盤力の改善可能性を探る財務分析③強み・弱み・機会・脅威を整理する事業分析④人材力・体制力の課題を把握する各種制度のギャップ分析⑤メンタルヘルスのストレスチェックから職場力を測定する職場・職員の“生き生き度”分析——で構成する。JAグループ広島では、昨年度のJA広島県大会で農業者の所得増



9月に1JA当たり1,000人超の正・准組合員を対象にアンケートを実施。金融商品や生活店舗、営農指導、農業関連施設、共同販売、直売所などの利用に対する満足度やJAへの期待事項を把握する。JAを利用する真の価値（理由）を分析・整理して、JAの目指すべき方向性を導き出す。

JAグループ広島では、昨年度のJA広島県大会で農業者の所得増